

健康スペシャル

9月11日(日) 13:00-15:00 於:結城福音キリスト教会

恒例になっており、好評です。健康に良いこと、歌を歌ったり、体を動かしたり、ゲームやお茶、お話を聞いたりします。是非御越しください。入場無料です。

「大岡さばき」のルーツは聖書？！

相変わらず根強い人気のあるテレビ時代劇。その三大主役といえば水戸黄門、遠山の金さん、そして大岡越前だとか。先日、その大岡越前をテレビで見ました。例の「お白洲」シーンで、二人の女性が子供をめぐって、「自分こそ母親である。」と主張します。それで御奉行様は、二人の女性に両方から子供の手を引っ張らせて勝ったほうを母親とします。痛さのために子供が泣き出したので、本当の母親がたまらずに手を離します。かくて、そちらの女性こそ本物とされ、子供もそちらに渡されるという「大岡さばき」のお話でした。

ご存知でしょうか？実は、この「大岡さばき」のルーツは聖書にあるのです。旧約聖書の列王記第一3章に出てくるソロモン王のさばきがその原型なのです。知恵があることで有名なソロモン王は、子供を争う二人の女性に対して、子供を剣で二つに切って半分にしてはどうかともちかけ、「そんなことをしないでください。生きたまま相手に渡してください。」と言った女性を真の母親と認めたのでした。この「ソロモン王のさばき」の話は、キリスト教とともに中国にまで伝わりました。やがてこの話は中国風に形を変えて『棠陰比事』(とういんひじ)という本に収録されます。この本は名裁判くらべを内容とする書物でした。この本がさまざまな「大岡さばき」のタネ本として使われたのです。何と時代劇の名場面は聖書から来ていたという訳です。

「聖書」と聞くと堅苦しいと思われるかもしれませんが、でも、驚くことに日本の時代劇にもつながっているのですね。このように、実はとても面白い聖書を一度お読みになりませんか？

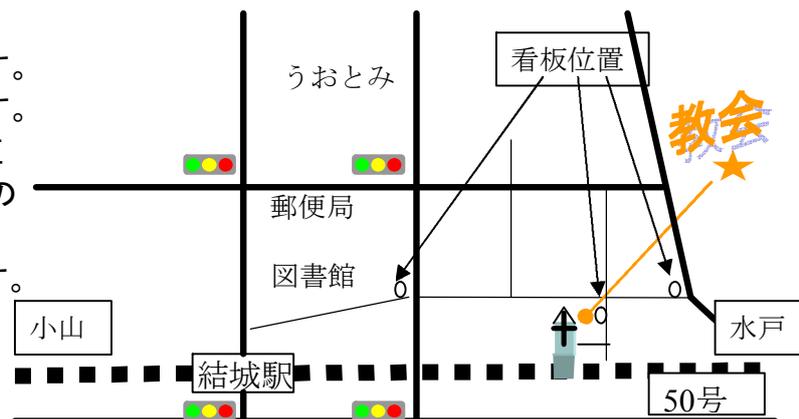
Amazing Grace Sep. 2005 Vol.05-3

いちばん早く年をとるもの

野村正雄(牧師)

「いちばん早く年を取るものは何か？」「それは感謝の心」というギリシャの格言があります。あるお年寄りのホームにお伺いしたことがあります。その時、そこで働いておられた婦人がこう言われました。「私たちがいくら一生懸命にやっても、一言も感謝の言葉がないんです。本当にイヤになるんです。」きっと、お年寄りの方は、「一生懸命にしてくれるのは当然のこと」と考えているのでしょう。働いているご婦人の方は「してもらっているのだから感謝してくれるのが当然のこと」と考えているのでありましょう。当たり前のこと、と考えるところに「老い」がある、と思います。あなたの心は年取っていませんか？思い切って、「ありがとうございます」「いつもお世話になり、ありがとうございます」と、声をかけましょう。きっと感謝の言葉が返ってくるはずですよ。

年を取ってくると、できなくなることが多くなります。赤ちゃんは、何もできなくても喜んで迎えられています。年を取るとできない事は、価値が無いかのような価値判断になり易いのではないのでしょうか？しかし、聖書の神様の見方は違います。「あなたがしらがになっても、わたしは背負う」イザヤ 46:4 と言っています。あなたの存在を喜んでいてくださいます。ですから神様の見る目で、自分を見たり、周りの人を見るようにしましょう。赤ちゃんを母親が見守っているように、いや、それ以上に神様が見守っていてくださるのですから、神様に感謝し周りの人に感謝して、心が年取らないように若々しい日々を過ごしたいものです。



結城福音キリスト教会 結城市戸張町603
0296-33-4359 <http://ibayuuki.infoseek.ne.jp>

